

【審査員賞】【森山 明子 選】

No.20 「「ミドリムシとテクノロジー」で、日常を取り戻す！」

千葉工業高校 理数工学研究部（飯島陸、佐藤大誠）

受賞コメント

減災をデザインする、これまで考えたこともないテーマに最初は戸惑いを感じたものの、アイデアを生み出す力、チームワークや表現力、精神面までも成長することができたと実感しています。（飯島 陸）

大学進学模試と重なり、2次審査のオンラインプレゼンには参加できなかったのが残念でしたが、審査員賞受賞の連絡を受けとても感慨深いです。今回のコンテストを励みに、いつか世界で活躍できる人材になりたいと思っています。（佐藤 大誠）



評価コメント

生き物としてのミドリムシは日常の価値観や常識を変える魅力的な未来型素材です。ミドリムシの実験的提案は大きな可能性を生むと思います。ぜひ実験の成果を検証して実現させることを期待しています。（齊木）

近年注目度の高いミドリムシですが、一般的な関心は環境負荷の大きい酪農に代わる食料問題解消のための研究です。でも、この提案はそうした関心をはるかに超え、ミドリムシの特性に注目することで新型コロナ感染を減じる内容なども含み、本コンペの趣旨に合致しています。テーマとプレゼンテーションの魅力は、選考後に応募者が工業高校在校生と知るとさらなる感動をもたらし、私にとって、今回見られた新潮流をもっとも鮮やかに体現する提案でした。（森山）

どれだけの量があれば効果が発揮できるのかが疑問だが、発想としては興味深い。（相良）

ミドリムシの培養で多くの利点をもたらされるという発想は斬新で面白い。このようなパーティーションが日常に浸透している姿のイメージは、多々の社会課題を解決させた先の次世代（未来）のライフスタイルを具体的に想起させる価値がある。ただし、それぞれの機能の効果の提示に具体性が乏しい。例えば、このパーティーションのサイズは？そしてその1台がどんな量の二酸化炭素を吸収したり、発電量がどのくらいになるのか、食用としたら何人分の何回のどんな栄養となるのか、等。盛り込んだ要素それぞれの中でも特に重要と考える要素についてだけでも具体的なプレゼンテーションがなされるなら、説得力は大きく変わったと思う。（平林）